

堀川のあらし



滝(落差工)があり、海水の影響を受けない区域

滝(落差工)

庄内川で取り入れた水は、矢田川の下に造られたトンネルを流れています。

庄内川まで延長された区間

庄内川

矢田川

名古屋城

名古屋ドーム

名古屋駅

栄

東山動植物園

海水の干満で水位が変化する区域

約400年前に造られた区間

フジツボや海の貝類が生息している区域

名古屋の中心を流れる堀川は、約400年前に徳川家康の命令で造られた人工の川です。

当時、名古屋城の西から熱田宮の渡しまで約6kmでしたが、後に下流での新田開発などによる埋め立てや、上流では庄内川まで延長され、現在の約16kmの川となりました。

船で物を運ぶ川として、名古屋の発展を支えてきた堀川ですが、江戸時代の文献では、「堀川の鮎や鰻、カジカなどは、とても美味しかった」「鯉や鯛があがってきた」との記録があります。

水質の悪化が進んだ時代もありましたが、現在では改善が進み、様々な生き物たちが暮らしています。

熱田神宮

新田開発などで延長された区間

堀川

名古屋港
ガーデンふ頭